

(別記様式)

令和8年度 京都府立城南菱創高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（**計画段階**・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○スクール・ミッション 教養科学科・普通科を設置する高校として、個に応じた最適な学びや課題研究等を通して幅広い知識・教養を背景にした深い学びと探究心の育成を実現し、地域社会及び国際社会の発展に貢献するリーダーを育成する。</p> <p>○学校教育目標</p> <p>1 普通科と専門学科を併置した単位制高校として、斬新かつ先進的な教育を創造する。</p> <p>2 教育理念（自主創造、真理探究、社会貢献）に基づき、学校目標である「確かな進路実現」「充実した自主活動」を具現化し、『存在感ある学校』へと変容を遂げる。</p> <p>3 生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりに邁進する。</p> <p>4 教育活動を通して、地域社会及び国際社会の発展に貢献するリーダーを育成する。</p>	<p>開校17年目を迎え、城南菱創が新たな教育のスタイルを展開していくための準備の年度とした。</p> <p>1 教養科学科・普通科ともに、授業および探究活動を通して、生徒の主体的な学びを育成する実践を行うことができた。</p> <p>2 学校行事においては、生徒が主体的かつ積極的に参加する姿が見られた。特に文化祭では、熱中症対策等を含めた安全・安心な運営を目指し、来年度以降の各学年の取組内容を見直すことができた。</p> <p>3 進路指導については、受験生が最後まで第一志望を追求できるような継続的かつ粘り強い指導が必要である。</p> <p>4 今年度の生徒募集については、私学志向の高まりにより公立高校全体の志願倍率が低迷する中、学校説明会や中学校訪問の充実により、一定の成果を上げることができた。来年度は入試制度の変更を踏まえ、引き続き丁寧かつ積極的な広報活動が必要である。</p> <p>5 学校評価アンケートの結果から、9割以上の生徒が充実感をもって学校生活を送っていることが窺えた。</p>	<p>1 単位制教育の強みである、柔軟で多様な科目選択が可能なカリキュラムを最大限に生かし、質の高いカリキュラム・マネジメントを推進する。</p> <p>2 日常の教育実践を通して、互いの人格を尊重し、多様性を認め合う学校文化の醸成を図る。</p> <p>3 生徒が自ら学び、周りの人と協働しながら成長できるような教育活動を大切にし、自己を伸ばす力を育てることで、学校全体の活性化を図る。</p> <p>4 探究的な学びと教育DXの推進を重点として、授業力の一層の向上に努めるとともに、生徒の第一志望である進路実現を支援し、大学での高度な学びや国際社会で求められるコミュニケーション力と主体的な思考・表現力を育成する。</p> <p>5 気になる生徒についての情報共有を丁寧に行い、学年部を中心に各分掌との連携を密にし、さらに関係機関や中学校等との連携を通して、切れ目のない支援体制を構築する。</p> <p>6 業務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保するとともに、働きがいのある職場環境づくりに努める。</p> <p>7 入試制度が変わることから、丁寧かつ積極的な広報活動を通じて、本校が誇る教育の魅力を力強く発信する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	機能的な組織・運営の在り方の追求	① 学校評価アンケートや学校運営協議会での意見や助言等を踏まえながら、前年度までの課題等を明確にし、分掌間の連携と教職員の共通理解のもと解決に努める		
		② 各分掌・教科及び各個人が、学校経営計画を踏まえた目標を設定し、全体での検討や個々の調整等を経て、全教職員で組織的に教育活動に取り組む。		
		③ ICTを活用した業務内容の効率化を推進し、教職員が生徒と向き合う時間を確保しつつ、ライフワークバランスを意識した働きがいのある職場環境を整える。		
教科指導	教科指導力の向上	④ 学力向上は勿論のこと、多様なニーズや興味関心に対応できるよう、教科指導力を向上させる。		
		⑤ 教科の特性を生かし、学校の特色化の推進に貢献できる取組をさらに充実・発展させる。		
		⑥ 教員が相互に積極的に授業参観、情報交換を行うことにより指導方法を工夫、改善し、質の高い教科指導を目指す。		
		⑦ 定期考査や模擬試験の分析を行い、学力の定着度を適宜検証する。		
	学習力の育成	⑧ 生徒自身がICT機器を活用し、学習や活動の記録をつけながら自ら成果や課題を見つけて自律的な学習ができるよう指導する。また、知見を広めるだけでなく、知識を習得できるよう指導する。		
		⑨ 生徒の学習面での課題を的確に把握し、適宜課題等を与えることによって興味・関心を引き出すとともに、知的好奇心を満足させるようきめ細かな指導・助言を行う。		
生徒指導	生活・学習規律の確保	⑩ 規範意識を高め、生徒自らが規律ある学校生活、安心・安全な学校生活を送れるよう指導する。特に、薬物乱用根絶、情報機器の正しい使い方や個人情報の保護については、継続的に指導を行う。		
		⑪ 頭髪や制服の着こなし等の身だしなみ、挨拶や言葉遣い等について生徒にその大切さを理解させ、品格ある高校生の育成を目指す。		

	生活・学習規律の確保	⑫ 日々、生徒の小さな変化を見逃さないよう気を配り、迅速に報告・連絡・相談を行う。特に配慮が必要な生徒については、情報を教職員が共有し、理解を深めた上で指導する。			
	保護者との連携	⑬ 各種通信や面談、家庭訪問等により保護者との相互理解を促進する。特に課題を有する生徒の指導については、共通理解のもと取り組む。			
特別活動	学習と部活動との両立 学校行事の活性化	⑭ 部活動や学校行事に積極的に取り組み、他者と協働しながら健全な人間関係を構築できるよう指導する。「切替と集中」により限られた時間を有効活用し、常に質の向上を目指すよう指導する。			
進路指導	可能性への挑戦を支援する 進路指導の推進	⑮ 高大接続改革の目指すところを十分理解しながら城南菱創の進路指導の軸を明確にし、講習や特別講座、進路講演会等を計画的、系統的、効率的に実施する。			
		⑯ 進路ガイダンスや進路LHR、個人面談等をとおして進路選択の幅を広げるとともに、個別指導を充実させ、可能性への挑戦を支援する。			
		⑰ 実力テストへの積極的な参加を促し、生徒自身が積極的に結果を活用するよう指導するとともに、進路指導部、学年部、教科が協力して結果の分析や課題への対策を行う。			
		⑱ 大学入学共通テストをはじめとする大学入試にかかわる情報を適宜提供し、昨年度および最新の傾向を踏まえた指導を行う。			
		⑲ 大学での高度な学問研究の実現に向け、「国公立大学＋難関私立大学」への進学について、最後まで諦めずに第一志望を追求できるよう、粘り強く指導する。			
人権	人権意識の高揚を図り、さまざまな人権問題に対する正しい理解と認識を培う	⑳ 日々の教育実践が、人としての基本を身に付けお互いの人格を尊重する人材教育の場であることを常に意識する。人権学習の内容を充実させ、人権意識の高い集団となるよう指導する。			
健康 安全 環境	気になる生徒への支援	㉑ 学年部を中心に各分掌、教科担当者や部活動顧問が連携し、教育相談会議等を中心に多角的に支援体制を検討する。必要があれば、関係機関や中学校とも連携し、組織的・継続的に対応する。			

	緊急時の適切な対応と連絡体制の確立	②② けがや体調不良の生徒の対応について、全教職員が適切な行動がとれるよう、対応マニュアルを共有し情報更新に努める。保護者連絡や教職員間連携を迅速に行う。			
	安心・安全を第一とした施設・設備の充実	②③ 安心・安全な学習環境、より快適な学校生活を目指して、危険箇所や衛生面の改善、施設・設備の一層の充実に事務部と連携しながら取り組む。生徒が自ら校内美化や整理整頓について意識し、自発的に行動できるよう指導する。			
図書館教育	学校図書館の機能や役割の充実	②④ 生徒の読書活動や探究活動を活性化し、幅広い知識、教養を培う教育活動につながる図書館の運営に努める。			
広 報	本校の魅力や求める生徒像等の発信	②⑤ 学校説明会や中学校訪問、各種進学説明会等への参加など、積極的な広報活動を展開し、本校の魅力が中学生や保護者に十分伝わるよう努める。			
	効果的な広報活動の展開	②⑥ 学校行事や学校説明会等の日程や申し込みなどをホームページで発信するとともに、日々の学校生活をインスタグラムを通じてタイムリーに伝えることで、多くの中学生や保護者が本校に関する情報収集をする際の重要なコンテンツとして機能するように工夫する。			

学校関係者 評価による 委員会	
-----------------------	--

次年度に 向けた改善 方向性	
----------------------	--